

9この都にとどまる者は、剣と飢饉と疫病によって死ぬ。出て行ってあなたがたを  
困んでいるカルデア人に降伏する者は生き、自分のいのちを戦勝品として得る。  
10なぜなら、わたしがこの都に顔を向けるのは、幸いのためではなく、わざわいの  
ためだからだ——【主】のことば——。この都は、バビロンの王の手に渡され、  
彼はこれを火で焼く。』」

11 ユダの王家について。 「【主】のことばを聞け。

12 ダビデの家よ、【主】はこう言われる。 朝ごとに、公正にさばきを行い、  
かすめられている者を、 虐げる者の手から救い出せ。  
そうでないと、あなたがたの悪行のために、  
わたしの憤りが火のように燃えて焼き尽くし、 消す者はいなくなる。

13 見よ、わたしはあなたに敵対する。  
この谷に住む者、平地の岩よ——【主】のことば——。  
あなたがたはこう言っている。 『だれが、このところに下って来るだろう。  
だれが、この住まいに入って来るだろう』と。

14 わたしはあなたがたを、 その行いの実にしたがって罰する。  
——【主】のことば—— わたしはその森に火をつける。  
火は、その周りをことごとく焼き尽くす。』

\* 特に断りが無い限り、新改訳2017より使用



「 捕囚に向けての宣告①～王、そして聖都 」

| エレミヤ書講解-46 エレミヤ書 21:1-14他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 21章 】

- 1【主】からエレミヤにあったことば。ゼデキヤ王が、マルキヤの子パシュフルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤをエレミヤのもとに遣わして、
- 2「どうか、私たちのために【主】に尋ねてください。バビロンの王ネブカドネツアルが私たちを攻めています。【主】がかつて、あらゆる奇しいみわざを行われたように、私たちにも行い、彼を私たちのところから引き揚げさせてくださるかもしれませんから」と言ったときのことである。
- 3エレミヤは彼らに言った。「あなたがたは、ゼデキヤにこう言いなさい。
- 4『イスラエルの神、主はこう言われる。あなたがたは、城壁の外からあなたがたを囲むバビロンの王とカルデア人に向かって戦っているが、見よ、わたしはあなたがたが手にしている武具の向きを変え、それを集めてこの都のただ中に向ける。
- 5わたし自身が、伸ばされた手と力強い腕をもって、怒り、憤り、大いなる激怒をもって、あなたがたと戦う。
- 6この都に住むものは、人も家畜もわたしは打つ。彼らは激しい疫病で死ぬ。
- 7その後で——【主】のことば——わたしはユダの王ゼデキヤとその家来、また、その民と、この都で疫病や剣や飢饉から逃れて生き残った者たちを、バビロンの王ネブカドネツアルの手、敵の手、いのちを狙う者たちの手に渡す。彼は彼らを剣の刃で討ち、彼らを惜しまず、容赦せず、あわれみをかけない。』」
- 8「あなたは、この民に言え。『【主】はこう言われる。見よ、わたしはあなたがたの前に、いのちの道と死の道を置く。

(4ページへ続く)

## ◆はじめに ～文脈の確認

### 1. エレミヤ書の第三区分「ゼデキヤ統治下での預言」（21～29章）へ

- (1) 彼は南王国ユダの最後の王である（前597～586年）
- (2) バビロンへの敗北を避けるために手を尽くす。例：エジプトの協力を得る。
- (3) 城壁が壊され、夜陰に乗じて脱出を図るも、捕縛される。両目を失う。

### 2. 今を見極め、神の視点で幸い（神の御心）を選び続けることの大切さ

- (1) 歩みを通して、その瞬間、瞬間が選びの連続である。  
\*この瞬間の選びは、さらに次の選びのために・・・と関連している。

## ◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 人生を通して、日々幸いな選びを

\*このメッセージは、神に喜ばなれる選びを続ける幸いを学ぶものである。  
=====

## I 主に懇願する王への答え（1～11節）

### 1. デゼキヤ王に迫る脅威

- (1) エレミヤへの約束の成就  
  - ①それまでの現実：にせ預言者として迫害を受けていた。
  - ②神の約束：必ず国のリーダーたちが彼のところに来て、とりなしの祈りを依頼するようになる。
  - ③約束の成就：ゼデキヤ王がエレミヤに人を遣わし、執り成しを求めた。  
a. 訪れた使者は、マルキヤの子パシュフルと、マアセヤの子の祭司ゼパニヤ。  
\*前章のパシュフルとは別の人物と思われる（参照 エレ38：1）  
b. 11：18～23、15：5～14の成就（嘆きの祈りに対する神の約束）  
\*参照 37：3～5、17～20、38：14～24、42：1～6
- (2) 危機の内容と祈りの求め ～捕囚が直前に迫っている緊迫感  
  - ①ユダ国がバビロンの攻撃から守られるように祈ってほしい（前588年）
  - ②淡い期待：セナケリブ率いるアッシリヤがさばかれたように、今回も・・・  
（2列19：35～36、イザ36～37章）

### 2. エレミヤを通して語る主の答え

- (1) 現状の本質を見極めよ。 3～7節  
  - ①ユダはバビロンと戦っているように見えるが、実際は神と戦っている。  
\*未信者の状態の本質は、罪人であり、神との敵対関係である。  
\*如何に人間的知恵で惨状を回避しようとも、抗うことはできない。
  - ②彼らがいかに主（捕囚の回避）を求めても、もはや遅い。  
\*エルサレムに籠城する者たちが疫病と飢饉で死に、生き残りが剣によって倒れる。  
\*本当に主を求めらるなら、それに逆らうのではなく、主が提示される方法に従え。
- (2) 絶望的な答えの中にある希望 8～11節

- ①二つの道の内の一つを選べ  
A. 死の道：エルサレムにとどまるなら、剣と飢饉と疫病によるさばきのみ。  
B. いのちの道：バビロンに投降するなら、捕囚民として生きる。
- ②ゼデキヤのこれまでの歩みと、祈りの求めを正す内容であった。  
\*信仰を働かせて、従順に従う選択のみが、唯一希望に至る方法である。  
\*ゼデキヤへのさばき（7節） エレ32：4、34：3、エゼ12：13  
\*両目を失うが処刑されずに丁重に葬られる。エレ39：4～7、52：8～11  
エレミヤ悔い改めの期間の提示

## II ユダの王家に対するさばき（11～14節）

### 1. 王家の使命をないがしろにするな

- (1) エレミヤは神のさばきが免れ得ると信じて、悔い改めを求め続けた。  
  - ①悔い改めの最後のアピール：その願いは叶わなかったことが後に明らかに。
  - (2) 朝ごとに、正しいさばきを行え  
    - ①「正しいさばき」：社会正義を実施するための王の務め  
\*例：ソロモンの願い「正しいさばきを行う知恵」1列3：9
    - ②正義の実践なき王国に、神の怒りが下る。  
\*彼らは唯一の神政国家であり、そこにあるべき義は、神の義の実践である。
    - ③ゼデキヤ王のみでなく歴代の王たちの墮落を、不信仰と共に重く見ている。

### 2. 信頼と迷信を取り違えるな

- (1) 誤った平安：  
  - ①エルサレムは安全で、攻め落とせる者などいないという過信：ヒゼキヤ王の前例
  - ②3つの谷に囲まれた天然の要塞という立地：ダビデ契約に基づく確信
  - ③契約の民としての役割を忘れ、神殿などの物理的存在に信頼を置いている。
- (2) 信仰は目見に見えないものを確信することである。  
  - ①目に見えるものへの依存は、本当の信仰ではなく迷信である。
  - ②イスラエルを召し、エルサレムを聖都と定め、契約を結ぶお方への信頼が信仰。
  - ③約束の地での安全や物質的祝福は、契約に基づき、信仰の結果与えられる。

## ◆まとめ：人生を通して、日々幸いな選びを

1. 神政国家（信者不信者の両方を含む）は、バビロン捕囚によって終わった。  
\*教会時代（今）は、個人に対する回心と従順が求められる。
2. 未信者の状態：義なる神に対して罪人であり、敵対する者。死後滅びに至る者。
3. 信仰者の状態：イエスの十字架を私への神の愛として受け取り、和解した者。
4. 信仰生活における選びの繰り返し：「狭い門から入る」（マタ7：13）  
  - ①常識を全否定するものではない。
  - ②バビロン捕囚のような、到底いのちの道とは思えない場合もある。
  - ③祈りとみことばによって判断する。